

関西大学図書館所蔵

「京都上京 伊勢屋九郎兵衛文書」(その三)

藤田恒春

78 尼崎屋新右衛門書状(折紙)

タテ二九・一  
ヨコ四二・六

猶く、やかて」く罷上候」へ者、つもる御事」とも可  
申上候、「いそきくわしく」不申上候、以上

罷下申砌ハ」ふたく仕候故」御残多奉存候、「其元御無」  
事ニ御座候哉、「我等も近日」可罷上間、「留守中」万事貴老  
様」打まかせ申候、「妙治老様」以別幣可申」上候へ共、能  
く」御心得被成可」被下候、御内儀様」へも御心得ニ可預  
候、「やかて罷上候而、「積段可申」述候、恐く謹言

七月三日

尼崎や  
新右衛門  
(花押)

(山田)  
宗味老  
人、御中

79 伊勢屋二郎左衛門書状(折紙)

タテ二七・三  
ヨコ三六・八

猶く、たはこの事、「随分く才覚可」申候、与四郎は  
やく」御下候て可給候、「熊谷お御尋候て」御下可申  
候、「又せんしのうり日記」うつし参候、「以上

又三郎殿御下候へ共、「何事不申候、然ハ」きいとかいニ給  
候、「則数合衆色々」才覚申候へ共、「其元る一兩人御いて」  
被下候とてねあかり」申候、七百めにて候ハ、」かいそん  
とそんし候へ者、「七百卅め四十奴と申候故」無其儀候、則銀  
子」巻ノ四五十奴請取申候、「自然やすき糸・」たはこ御入候

ハ、かい」候て、おき可申候、将又』銀子三百廿七匁三分五厘」請取申候、薬種のかね」の出入ハ皆々すミ申候、（目）むらさきのそめちん」そめ物のかねも指次」すミ申候、につぎ御」けし候へく候、先度」のいたハ皆々遣申候、其」（木刀）たちハ二三百め程ならハ」御下可有候、恐惶かしく

いせや

二郎左衛門

九月四日

秀弘（花押）

（○宛名欠）

80 伊勢屋二郎左衛門書状（折紙）

タテ二七・三  
ヨコ二六・七

（○前欠）

一十五匁かうりたう（氷糖）

一六匁五分こんへいとう

一五十五匁ちんかうの

合百十六匁五分也

（○前欠）

与四郎早々かけ□」御とらせ候て、御下」候て可給候、ならや」新兵へ義之かね共」急度使御やり聞候て」濟申やうニ才覚」たのミ申候、又卯右」衛門殿とこの与四郎」所へも態其方御」出候て、卯右衛門ハ次第お」御とい候て可給

一山田宗味公（沈香）の」ちんかう・かうり砂唐」（金平糖）こんへいとうのかね」合百十六匁五分にて候間、」これも又かの五百目」のかねもせつ〜前ニ」御越候て可給候、たのミ」申候、恐惶かしく

いせや

二郎左衛門

九月七日

秀弘（花押）

（○宛名欠）

81 伊勢屋二郎左衛門書状（折紙）

タテ二六・三  
ヨコ三三・九

猶々、新右殿・」与左衛門さん用」共、きつと可被成候、」其方ニ御いて候はんや」も□も御うり」候て可給候、」浄喜老」助中□殿へも」御別儀不可申」候へ共、御心得」たのミ申候

御状拝見申候、」甚左衛門殿へ与三右」同道之事、心得」申候、其元少」すきも御入候ハ、」必々御下可被成候、」与三右衛門殿の」出舟も来月」中比にて御入」（○中欠）」尼崎へ状遣」可申候、新右衛門殿」の勘定も急」度可被成候、恐惶かしく

いせや

二郎左衛門

十一月廿五日

秀弘（花押）

(奥封ウハ書)

「(墨引)

いせや

九良兵衛殿

まいる御報

堺

長

82 勝田左近書状

タテ二七・一  
ヨコ四五・六

(〇前欠)

「明日ハむろ町へやとかへ申候、以上

(〇前欠)

雨ニぬれさんく事ニ候、「其方へ参候ても、さのミ玠」敷  
事ハ有ましく候、「此方ニすくとふせ」可申候、あわ  
れとおほしめし」候ハ、此方へ御出待申候、五左へも」可  
参候間、様子談合可申上候、「恐惶謹言

五月九日

(花押)

(〇宛名欠)

83 勝田左近書状

タテ二六・三  
ヨコ三九・七

(端裏封ウハ書)

「

(墨引) 伊九郎兵様

御報

勝左近

」

尚く、理兵へ所へ待申候、「とせんく、以上

御状拝見申候、今晚理兵へ」所へ御出有間敷不相届候、「い

そきく御出待申候、「又今朝の事ハ面悟」可申候、く、

恐惶謹言

五月十九日

(花押)

84 勝田左近書状

タテ三一・三  
ヨコ四四・五

(端裏封ウハ書)

「

(墨引) 伊九郎兵衛

御報

貞

勝左近

くわしく面ニ可申候、「夜前ハ無本意候、以上

御状具拝見申候、焼物代」の事、心得申候、たゝいま」御殿

へ参候間、それへ立寄」得御意候、恐惶謹言

五月廿四日

(花押)

85 勝田左近書状

タテ二八・一  
ヨコ四〇・四

(端裏封ウハ書)

「

(墨引) 九郎兵様

御報

貞

勝左近

すれとも、とせんをはらし」申、又明日とのやくそく

にて御帰候、世ニハ又さやうの「こゝろ有人扱も有之事候、」すてる神有ハ又とりあけ「(る神カ)□□も有之と存し、あわれと思召候ハ、御出待申候へく候、」理兵へも切く御出候、以上

八月五日

(花押)

又申候、御ふるまいの事「行かゝり次第ニ候、以上

御使札忒次第二候、」あわれ今にとせんを尋る人もかな「人の見廻ハ世にありし所へ」甚以参上申度候へ共、昼ハ互ニ「少用有之、日暮ニハ御自由なく」誠ニ昼成共、御見廻可申かと存候へ共、「昨昼もこゝろさしの有之」(比丘尼)ひくにんさま御出候而、終日御あそ「ひ被成候、折くハ夏切ノ御茶」又してハさげにて、(租)但あい客ハ「一人斗にておかしく思召候ハん

### 86 庄左衛門書状

タテニ八・一、二八・三  
ヨコニ九・九、一八・一

一「端裏封ウハ書

(墨引)

九郎兵衛様

人々御中 庄左衛門

なをく、廿夕ほとノ丁銀御かし「奉願候、御先度之六  
夕かし候かねとなりて」ときかり仕候へハ、それもほ

しく候よし」申候間、右ニかいニやり申度候間、はつち  
かわぬやうニ「万々奉願候、以上

此中ハさんくわつらい申、御見「舞も不被仕候、爰元も  
ちん取衆」に二日よいを申候、あまりの事と「(雀)龜濟老も今日  
態よひニ人ヲ」遣申候、定而明日ハ御上り可有候、」□□所

ニも殊外しかり申候間、さて人々<sup>\*</sup>申候又申上候、明日□  
□へ「はん米をかいニやり申度候間、かねを」此者ニ廿夕ほ

とのいた銀御かし候て「可被下候、新右へ佐渡より此度きる  
物」こうてくれ候へと、我等をたのまれ申候へハ「先それ成  
共使候ハぬハはしとつまり」申候間、万々奉願候、以上

三月十五日

\*前紙と後紙は別の台紙に貼られているが、本来一紙と考えられるため一緒  
に掲げた。

### 87 四郎左衛門書状 (折紙)

タテニ八・二、二八・三  
ヨコニ九・九、一八・一

此中之御「そうさ不申上候、」忠左衛門書状可「参候へ  
共、有合」不被申候まゝ「無其儀候、其元にて」此中参  
やい申「御衆へ御心得奉憑候、以上

今度ハろしす」(露次)からと申、殊ニ其「元にて永く御<sup>(遣作)</sup>そうさ

御礼難「申尽候、爰元」買物など忠左と「談合仕、相調可申候、」五左衛門尉様へ御状「御取可有候、能く」御捻御入可被成候

一(土佐)とさのやうす承候、もはや「はしら七八本出」申やうなきこへ申候、「一段能やうニ承満」足申候、やかてく「御下待申候」

一九右様之一儀、やう「すも候ハ、承度候、」委不申候、恐惶謹言

九月三日

四郎左衛門

□(花押)

(○宛名欠)

88 助信書状

タテ三二・六  
ヨコ四三・五

「(端裏封ウハ書) 九 郎兵様

まいる人々御中

」

猶々、銭の良子御渡の「由忝奉存候、」懸御目御「礼可申上候、以上

二三日者不能尊意、朝「暮御床敷奉存候、先度ハ」さんく

ニ仕候、左様ニ候へハ「銭之良子御とりかへのよし」忝存候、何も以参上御礼「可申上候、くわしくは貴」面ニて可申上候、恐々謹言

極月十二日

助信(花押)

89 助信書状

タテ三一・八  
ヨコ三六・一

「(端裏封ウハ書) (墨引) 九郎兵衛様

まいる人々御中

助信

尚々、水銀之事、「御うりなきとをほしめし」候て可被下候、以上

御状忝拜見仕候、扱々「水銀之事承候、御尤ニ候、」御うりなきとをほしめし「候て、御まちたのミ申候、我等も」いままんく「めいわく仕候、」とかくく「貴様たのミ申候、」則六左衛門殿もかつて(合点)つにて「御座候間、とかくくたのミ申候、」恐惶謹言

即刻

90 助信書状

タテ三三・一  
ヨコ二七・〇

(端裏封ウハ書)

「(墨引) 九郎

兵衛様  
まいる人々御中

助信

」

言

卯月廿三日

重(花押)

」

(奥封ウハ書)  
「(墨引)

いせや

九郎様

参御報

太郎右

」

猶々、唯今得御意満足仕候、以参銀子之事可申候へ共、「不叶用所御座候まゝ如此候、」必々明日御下被成候様ニ御才覚たのミ候へく候、「御報具ニ可承候、」返々銀子明日御下たのミ申候、「此方江戸よりも理兵へ殿二三日中ニ御のほり

(〇後 欠)

わさと申入候、大坂へのかし」銀子之事如何被成候哉、承」度候、我等へ切々申来候、近」日ニ御下被成候て可被下候、頼」存候、左様ニ御座候へハ、我等所ヨリ」今日人を下申候、明日ニも

(〇後 欠)

91 太郎右衛門書状(折紙)

タテ三二・一八  
ヨコ三六・二

尚々、よきやうに」奉頼存候、以上

尊書拜見仕候、「拙子儀、深町様銀」ミに可然由被仰候、「忝存候、菟角爰許」へ御下向之由万々可申候、「其砌万々可得御意候、「いかやうにも奉頼存候、乍去」浄喜江爰爰許(所書)」しよたいにて御坐候間、「さやうのためにも成申」候ハ、罷下可申、とかく」御下向之時御談合可申候、「恐惶謹

92 太郎右衛門書状(折紙)

タテ三二・一  
ヨコ三八・四

尚々、やかて」罷のほり万々」御礼等可申上候、以上

御書中具拜」見仕候、此中」あまりおそく候まゝ、「今日竹をのほせ」候ハんと存候つれば、「弥兵衛殿御下向」畏存候、はやてんきも」能御座候まゝ、「一兩日」中ニ舟を出し可申候、「六左事も心得申候、「いかやう共談合」仕可申候、仕合能や」かて罷上り万々」御礼等可申上候、「留守之儀、浄龜公」「万事」奉頼存候、くハしくハ」重而可申上候、恐惶謹言

六月十九日

太郎衛門  
重(花押)

いせや  
九郎兵衛様

93 太郎右衛門書状(折紙)

タテ二四・七  
ヨコ三四・二

猶く、くわしくハ」浄喜公まで申候、」以上

先度以書状申候、」拙子儀、深町様」へ御尋被成候て被」下候や、さためて」御取乱候て候はんまゝ、」御たつねも有間敷と」存候、ふか町さまハさた」めて秋も備中へ」御つれ候ハんと思召」候や、さやうに御坐」候へハ、十月比まであき」ないをも不仕、あそ」ひ候て居申事も」難成候、□□□□□□  
(○中 欠) □□□□□□めなと五石十石」御かうりよく候てハ」身上不成候、自然」秋も備中へ御」つれ候はん覚悟ニ」御坐候□、銀子を」御ふちとだいに」うり候て、ひまの時ハ」□□□いをも仕」度存候、いづれも重而」可申談候、恐惶謹言

七月十二日

太郎右衛門  
重(花押)

いせや  
九郎兵衛様

人々御中

94 森 七介書状(折紙)

タテ二七・八  
ヨコ三五・二

以上

其後以書状をも」不申承御床敷」存候、先其元」(喜右衛門)深町様長く被成御」逗留、御事繁御座候ハんと推量」仕候、何も其元御」無事之由、目出度」存候、此方相替」儀無御座候、ちと」罷上懸御目候て」□□儀改申度候、(○中 欠)」乍去無事ニ被仰」付□□□目出度」存候、委敷ハ」以面可申承候、」急書中さつと」申候、恐惶謹言

卯月十五日

正□(花押)

(奥封ウハ書)  
(墨引)

九郎衛様人々、森七介

参御中

95 弥兵衛書状(折紙)

タテ二五・〇  
ヨコ二九・八

猶く、御こしニ」おいてハ万々」御談合申度」事までニ候、」貴様の御こし」なく候共、わかき衆」成共なまりを」かいニ可給候、」わか様へも御地走」(船)可申候一なまりのねとうめハ」小ニ付而い□□ニ」(値)(○中 欠)」(便)ひんきニ御状」被遣可被下候、」去年下候時分ニ」御□候と請申候間、」御心得候て可被下候、」以上

幸便之条一書「令申候、仍其以来」以書状も不申「上御床敷奉」存候、其元何茂「何事無御座候哉、「承度存候、我等も」九兵衛殿御かけニ」<sup>(藤)</sup>仕合能候、ち「〇中欠」

□□ひ□□之すきニ御見物ニ「御こし所仰候

一諸役之儀、一も「忒つも望申候へ者」殿様御下向つな

く候」てハ成申間敷候由候、「御奉行衆御申義も」しゆ

り様御下向之」時分御聞合御」とも被成候、御こし」待

入候、恐惶謹言

四月四日

<sup>(京)</sup> 弥兵衛 (花押)

(墨引)

豊後□山

伊勢屋

九郎兵衛様

参人々申始へ

弥兵衛

\*58号文書と同一人物

96 山田宗味書状

タテ三一・七  
ヨコ四七・八

(端裏封ウハ書)

(墨引)

九郎兵さま

まじる

そうミ

猶ぐ、次右衛門あし過候由、<sup>(伏見)</sup>ふしミへ」返し候ま、早

く万事面上ニ談合」申度事候、から物や九郎右衛門殿へ

貴殿」御□て候て、せてんの談合あるへく候、「百十五

奴ニうり可申候、理兵へも」とかくせつにか□□□□へ

申候

た、いま平野や<sup>\*</sup>せてん取返し申候、「きのとくとつく

く申候

一昨日<sup>〆</sup>貴さまへ御馳走ノ仁へ」とかくニ申度候間、御同

道候て御いてまち入候、「一段<sup>(結構)</sup>けつかうさやにて候ま、」

すこしちかい候共、九郎右衛門殿へ」うり可申候、せてん

も四十五奴ニ成共」まけ可申候、又あかき小段子も其外の」

道具共もうり可申候、とかくく」早くまち入候、△今日

伏見へ無御出」一段仕合ニ候

△おれ銀せめて五貫目ほど成共」先く替て、次而返し申度候、

十貫目上り申候

△彦次右衛門ノちい又ハこちい方へも」貴さま之ものた、い

ま御やり候て、小仏大仏」もかり候て参候へと可被仰遣候、

△まかいの事たのミ申候

△まき物しまい候て、今日先く<sup>編</sup>可申、とかくく早くく

三月二日

＊せてん(satin)、オランダ語、縞子

97 山田宗味書状

タテ三一・九  
ヨコ四八・三

(端裏封ウハ巻)

「(墨引) いせや九郎兵さまやた、そうミ

猶、忠右衛門其へ参□□□□「さやうニ□□□□候事候  
間、□□□□「□□□□者有無ニ罷帰事候、以上

(夜前) やせん者きとくニ御来□□□□「忝候、く、左様ニ候へハ、道  
味□□□□「たゝいま如此申来候、今朝必く可有」御出由候、  
兩人の御書中則「御目にかげ申、小川喜介殿」必く御来儀  
ニ可被下候□□□□「万々後刻可得貴意候、」又々之おれの事ハ成  
間敷候や、「少成共かへて可罷帰候也、」とかく面上ニ、恐惶  
かしく

三 六日 (花押)

98 山田宗味書状

タテ二六・七  
ヨコ三〇・二

(○前欠)

ふくりきてくハシヲわた□□申候へ共、「ふしミゆつか  
いニておきあかり申候、」早々あをはく御調たのミ申候、「  
急早々、恐惶かしく

三月七日 (花押)

(○前欠)

□□日取て遣申候こんのはく「あをはくいづれもあしき由」申  
来候、たゝいま持て参候、左様ニ候へハ、貴さま御近所之は  
くやニいかにも「いろのあをきはく候ハ、御調頼申候、」明  
日其方ニい申候内ニ道味先日「はくやををしへ申候所ニ而、  
さと」御調たのミ申候、あをはく「二寸六分」のはくを銀子一  
匁二十五まいつゝ「うり申由、嶋次右衛門方申越候、」小堀あ  
きの手ヲとめて候ており候まゝ「いそきくこし候へ、と遠江  
方政一申越候、」万事御きも入たのミ申候、早々御てまち入候

99 山田宗味書状 (折紙)

タテ二九・四  
ヨコ四三・〇

昨朝者早々御「上落不及是非候、」前かとのり物かき「  
かたへ御やくそくニ」候条、随分念を入「申付置候処ニ、  
我等之」六尺かちけもの(替)とおほしめし、(深町講左衛門)深殿にて「御や  
とい候て御帰之由」御尤ニ候、深殿ハ久々「ノ御知音之間、  
其段も」御尤ニ候、さらく「我等うらミハ毛頭」無御座  
候

一 祢々先く少之間』かし申候、頓而御返し』あるへく候

一 小判さかり申候由、』不及是非候

一 おれ銀相調申候由、』被仰越候、是又』忝候、則□』庄左

今日上せ候条、』おれ銀庄左ニ御渡』頼入申候、内々ノ

銀も庄左衛門ニ上せ可』申間、御うけ取可有候

一 わりなき御無心ニ候へ共、』から物や利兵へ所にて』らしや

ノたうふく』今度之□□はれを』そんりやうにて御かり

頼申候、少もそこない』申事にてハ無之候、』上様御着

被成候つるを』させ可申と之のまでニハ』何も庄左のほせ

候間、』万事口上可得御意候、』尚中々早々、恐惶謹言

三月十一日

宗味 (花押)

九郎兵さま

人々御中

100 山田宗味書状 (折紙)

タテ三三・三九  
ヨコ三九・三九

猶々、先度とさの』しゆりのほられ候事』此方ニ而よく

く相聞候、』一昨日駿河へ申来候キ、』もはや御たつ

ねかましく候、』さりな□ら又めつらしき』さた候ハ、

御しらせたのミ申候、』ふくたや清左ニもとさの様子』□

□事、内儀ニ』御入候て、御たつね候へく候、』やうす

御しらせたのミ申候、』しゆりも与三右衛門もやかて』

とさへくたり可申候、』□弥事、一礼ニのほり候へ共、』

たゞいま御礼ならず候而

(○後 欠)

態一書申入候、仍』先度者遠路御尋、』殊更見事御くわし』

一折被懸御意忝候、』さりながら早々』御帰宅候て、御残

多存候、』何事モ不申一段』御残多候、弥々其方』御透ニ

一夜とまりニ』九郎左殿御同心候而、』御越奉待候、是非

く』よろしく申候、』□□貴□』御参会候而、九郎

殿』御心中別条なき』やうすにも候ハ、此由』一伝た

のミく』わさとひかへ候へく候

一御女房衆今度者、御たんしやう』にて候へ共、むすこ殿度』

御それ候さそく』御残多おほしめし候ハん事』書中不得

申候、先く』御女房衆御無事候て』珍重々々、乍憚御女房

衆へも』一伝たのミ申候、猶』期面上之節候、恐惶謹言

九月二日

山宗味 (花押)

いせや

九郎兵さま

御中

101 山田宗味書状 (折紙)

タテ二八・二  
ヨコ四〇・五

いそき早々』以上

昨日之御報「今朝四つ時分ニ」拜見申候、誠々」被入御念  
忝存候

「今日可罷上処、」不叶用所候間、「無其儀候、明日者」未明  
可罷上候間、「いかやうの御用之」儀候共、御やとニ」  
御座候て可被下候

「一両(〇中欠)可忝候、下々のまかないも」乍御太儀頼申  
候、「はんまいをハ是、」もたせ申候、我等事ハ」責さま  
之御さうさニ」可罷成候  
(遣作)

「一儀すいふん」御馳走可忝候、「今日右所へ忠右衛門」の  
ほり候間、乍次而」一書申入候

「坂主水殿への事」被入御念忝候、恐惶謹言

十一月朔日

山山花花押押

いせや  
九郎兵様

御中

102 山田宗味書状

(墨引)

(三脚)

いせや  
九郎兵さま  
まいる

はくや  
やた  
そうミ

タテ二九・五  
ヨコ四一・九

一書如此候、早く」まち入候、恐惶謹言

霜 五日 (花押)

「昨日(小堀政一)遠江守上落ニ」付、我等義も伴ニ罷上候、「遠州今  
あかつき」幸伊州へ数寄参候付而」罷帰、我等ハ于今有之  
事候、「さやうニ候へハ、道(深町警左衛門)駿符への」下向十日と昨日道  
被申候」ふか町殿(深町警左衛門)ノ音信ノもの」拜可申間、早くまち  
入候、「昨日モ以使申入候へハ、御他出」よし申候て、外之  
もの帰可

(〇後欠)

103 山田宗味書状

タテ二九・四  
ヨコ四三・四

返事まち申候、御ひまニ候ハ、早くまち申候、  
この使(居)いまた帰不申候、其方ニ」い申候や、返事まち申  
候、以上

今朝無御出候、御残多候、「唯今伏見へ罷帰候、かの」柄御  
ミせ候や、是居使進候、いまた」不罷帰候、いかやうにも御  
才覚頼申候、「御隙ニも候者、即刻御入来待申候、「道味も夜  
前罷上候、先く今朝使ニ候、「返くまき物の事たのミ申候、「  
はやく御返事あそはして可然候」かしく

十一 六日

(花押)

〔奥封ウハ書〕

はくや

〔墨引〕

九郎兵さま

まいる

ミ

104 山田宗味書状

タテニ八・二  
ヨコニ九・四

〔端裏封ウハ書〕

〔墨引〕いせや

九郎兵さま

人々御中

宗味

返々、御出候て可申候、以上

又申入候、ふし（伏見）ミヨ用之事唯今「申来候間、いそきく御出候て可」給候、御用中殊更御ふる舞（談合）「之座敷へ申入候事、

いかく候へ共、」たなかう申度事候ま、扱々」如此候、御（盟候ハ、）隙候者いそきく」待入候、為其人をそへ進之候、」恐惶謹言

（〇後 欠）

105 某書状案（折紙）

タテニ三〇・四  
ヨコニ三五・二

（〇前 欠）

御用ニ付而、銀子式十め」こし候へと被仰下候、則」御使へ相渡し申候、只」今備中罷下候ミ」まり御使預り、先々」満足

不過之候、遠江守（小堀政一）ハ」はや夜前出舟」被申候、我等ハ只今」

罷下候、猶来春」早々罷上可得尊」意候条、書中不」申述候、

我等罷下」儀、俄ニ被申出、かやう」（〇中 欠）」無御

〔可被候、恐惶謹言

（慶長十四年九）  
霜月十七日

106 某書状（折紙）

タテニ六・六  
ヨコニ五・八

（〇前 欠）

やかてく」のほり御れい」可申候、御内儀さまへも」御心得たのミ申候

（〇前 欠）

申候、我等もさつまへ」三月廿四日ニハ付申候、」こゝもと

何事無」御座候、御きつかい」被成間敷候、こゝもと」

せにい申候事法」度にて御座候ハ、」さてく」おもいの

ほ（返）たうりう仕候、」さりながら公儀」とゝのへ候て、大か

た」仕申候、ほんニハ罷」上可申候、御きつかい」被成間

敷候

一たうせん(絹)なとおくく」参候、まつまさへ」四■そう付申候、」  
当年(悪)ハくろ舟なと」も参由申候、かいお」きなと御無用

(〇後 欠)

107 材木代勘定書

タテ二六・六  
ヨコ四三・八

覚

一三本八寸角 六拾四匁八分  
右之内へ人(夫)ふニ壹貫五百文  
此良子貳拾八匁五分引  
残而三拾六匁七分五厘被参候

五月十二日

九郎右(花押)

次郎左様

まいる

「頼四つ」

108 銀子等勘定書\*

タテ二五・八  
ヨコ九三・九

二匁七分五厘

助大郎

三百六十二匁六分

竹 喜兵

三匁六分

大郎右衛門殿

七十九匁

喜兵衛殿

二匁五分

金右衛門殿

拾二匁

大郎右衛門殿

百七拾匁

理兵衛

貳拾六匁三分

さかい 二郎左衛門殿

貳拾二匁

石川 弥右衛門殿

拾九匁三分

二郎左衛門殿

十五匁

与三郎

〇二百四十四匁五分

新右衛門

壹匁八分

喜兵へ殿かけ すふくろノウラ

卅壹匁

兵へ之 三十郎殿

二百六十四匁二分

孫一殿

三百二十九匁五分

うをや 新右衛門殿

百六匁五分

うをや 清右衛門殿

六百匁

清右衛門殿

惣合貳貫二百九十二匁五分五厘

錢定覚\*\*

貳百貫

見せ

七拾貫

小見せ

四拾九匁

うち二有

百文 はした

合三百拾九貫百文

八月三日

\*横帳の内の一  
\*この箇所全文抹消されている

109 吹分銀勘定書断簡

吹分ニ相渡銀分

九郎兵衛殿へ

九日

一銀六百七匁者<sup>㊤</sup> 三月九日

使小吉

十一日

一銀壹貫百六拾五匁<sup>㊤</sup> 同日

使甚三郎

十三日

一銀壹貫四匁者<sup>㊤</sup> 同十三日

使甚三郎

十五日

一銀貳貫四拾七匁三分同十五日

使甚三郎

三月十五日

一銀貳貫三百拾□匁 使

(○中欠)

三百廿十二匁

廿七匁 与三左衛門殿らうけ取申候

七月十一日

一三百五十五匁 是八まへの吹銀にてかへ申候

三百廿二匁 吹立分

十六匁筋

\*横帳の内の一

110 樽代勘定書断簡\*

筋御中へひかへ

三月二日

銀子百十匁五分 樽十七

同日

\*11号文書と関連あり。横帳の内の一

111 小遣日記断簡\*

□月七日こつかいにき\*\*

三文 一せん□り

タテ二六・四  
ヨコ二六・八

タテ三三・一  
ヨコ二九・二

タテ三〇・六  
ヨコ二九・五

八日

〇 八分

十日

十八文

十文

十七日

五文

八文

十九日

〇 二匁

廿四文

廿日

廿五文

廿五日

六匁

〇 六日

六文

(〇中欠)

〇 四分

たい五つ

たい一つ

〇〇〇一そく

(草鞋) わらし一そく

ミようほんち

(屋休) ひるやすミ

ミやもはたこ

(鯨波) くちらなミから

(柏崎) かしわさきへたちん

(駄賃) ふなちんさを

はんさきはたこ

(鉢崎) たいこん

こしみの

』

廿一日

五合

(路銭) ろせん七十八匁四分

一下ノ良合

百五十一匁七分五リン

一上ノ良合

八十三匁七分五リン

二〇 五升三合あり

たこん

\*横帳の内一枚、18号と関連す

\*この箇所の紙背に「いろは」の習書あり

112 小遣日記断簡\*

こつかいにつき

七十五文

ます

三百文

(船賃) ふなちん

六十文

(駄賃) たちん

四文

又ゑもん

二百文

三人つかい代

二百文

ちゆ五郎さま

二百文

めうしゆさま

二百文

二郎ゑもんさま

タテニ七・三  
ヨコニ三・五・八

二百文

久兵へさま

百文

四郎さ  
かゝ

たる

十三文

せかた

卅文

せんにかし

十文

ちやのせに

よ七二すまし

六日

百文

与七つかい代わたし

七日

卅文

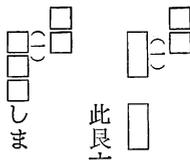
つかい代  
同人ニわたし

\*横帳の内一枚

113 衣類注文

注文

タテ二四・九  
ヨコ三七・九



此良六十匁

三端



此良十三匁五分

壹端



一なんとしま

壹端



一へにのたん  
(紅縵)

貳端



此良

四ひろ



一からしま  
(渡島)

壹端



一からしま  
(渡島)

貳端



一くろからしま  
(黒澁島)

壹端



此良十四匁四分

壹端



此良十四匁五分  
(此)

壹端



此良十二匁六分  
(此)

壹端

合式百式十二匁四分

一又からしま

十二匁ほと

巻端

114 染糸勘定書

せんしの覚

又右衛門殿ニ有

大坂へ

久兵ニ有

堀へ

七兵へ殿

六左うり被申候

善齋ノ

ちい

与左衛門持下申候

大

治兵へ殿

同人

六右殿うり

勝左殿

一齋うり

一齋殿

タテニ七・〇  
ヨコ三八・五

三疋

五疋

□□殿

巻疋

二疋

一疋

半疋

二疋

二疋

六右うり

治兵へ

□□□殿

七兵へ殿

兵右衛門殿

深町殿

同人

七兵殿

六右衛門殿

勝左殿

115 七兵衛殿取替勘定書断簡

卯月十八日七ひやうへ殿取かへ

二百文

三百四十文

八匁

一匁

二匁

使又七ニわたし

使与一ニわたし

かのおおひ一たん

八介さま御かたひらそめちん

きぬいと

さめ

タテニ六・四一  
ヨコ二〇・四一

116 莩買日記断簡\*

タテニ五・〇  
ヨコ二一・〇

たはこのかい日記

五十匁	うけとり
二匁	二斤
九匁九分	十斤
二匁四分	三斤
二匁七分	三斤
二匁一分	三斤

\*横帳の内の一枚

関西大学非常勤講師